

家と家のあはひの空の筋雲に色づくまへの夕日にじ  
めり 横山未来子

ほんの一、二分のできごとである。ごく限られたある  
角度からしか見えない小さな現象である。この筋雲に気  
づいた人は、作者のほか誰もいないだろう。地球上に今  
いる人類七十八億人のなかで。たった一人この作者だけ  
が気づいたのだ。もし作者が気づかず、短歌という詩が  
なかったなら、夕日がにじんだなんていうことは、誰も  
気づかぬまま無かったことになったにちがいない。そん  
な、短歌の中ならではの発見。

雪ティラノ作つてと友の子に言われ雪上で読む恐竜  
図鑑 桜 望子

下句「……雪上で読む恐竜図鑑」の意外性が見所。作  
りかけの雪だるまならぬ雪ティラノのかたわらに立つて  
恐竜図鑑を開いている。そんな不思議な人を見かけた  
ら、だれかにそつとしゃべりたくなるはず。

三河弁「すいとるじゃん」と二人づれ近付きてわが  
後ろに並ぶ 稲垣国男

コロナ禍のなか、名古屋駅近くに出かけた折の一連の  
一首。食べ物屋か人気商品の店の前の行列らしい。特に  
何かをねらったわけではなく、スナップ写真のように、  
一場面をさりげなく切り取っただけのように見えなが  
ら、生き生きとコロナ禍の街をとらえている。

来年度は対面を合言葉に次々閉まる後期の授業

滝澤政雄

授業はずっとオンラインで行われてきたのである。教

## 短歌の現在

### No.480 今月の14首を読む

#### 佐佐木幸綱

員に実際会うこともなく、同じ授業を履修した学生にも  
会うことなく、一学年が終わった希有な体験を作品化し  
た一首。ただ、「閉まる」はいかが。「閉じる」又は「終  
わる」か。

遅延の飛行機最終便をじつと待つ「雪の降る町コン  
サート」終えて 蔵田道子

旭川で開かれる「雪の降る町を」の作曲で知られる中  
田喜直を記念するコンサートに、わざわざ東京から出か  
けて行った時の一連中の一首。場面は旭川空港。閑散と  
している感じが、地方空港の空気を伝えている。

積雪の予報が外れ氷雨降る父なき冬を初めて生きる  
加古 陽

下句「……父なき冬を初めて生きる」が心に残る一首。  
未来は不確定であるから、当然のこと、予想はしぼしぼ  
はズれる。父が不在の世界にはじめて生きる作者は、そ  
れまでとはちがつて不確定な未来と直接に対面するよう  
な感覚をおぼえたのだ。何歳になっても父は父。分かる  
ような気がする。

「不適切な会食」などと報じられ飲食まひるの不貞  
のごとし 鬼束美佐子

「マスク警察」という言葉がはやったりしている。奇  
妙な正義をふりかざすテレビ、新聞等のマスコミ、さら  
にはSNSなどの発言を皮肉った一首。なるほど、なる  
ほど。下句の皮肉、なかなか。

一七二二年に現われた音楽に向け背筋を伸ばす

松岡秀明